

やはぎ

八尾市立
高美小学校

2026.3.1

令和七年度を振り返って

教頭 太城 孝介

保護者の皆様、令和七年度も本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。子どもたち一人ひとりが、この一年間で心も体も大きく成長する姿を見せてくれましたことを、教職員一同、大変嬉しく思っております。

今年度は「自ら学びに向かう力の育成」をテーマに、教育活動を進めてまいりました。これは、ただ知識を教えるだけでなく、子どもたちが「なぜだろう?」「もっと知りたい」と感じる好奇心を大切に、自ら課題を見つけて挑戦する楽しさを知るための取り組みです。授業の中で子どもたちが主体的に意見を出し合ったり、自分の興味があることをとことん調べたりすることで、学習の意欲が向上し、結果としても自分の考えを表現する力をつけることができました。この「学ぶ楽しさ」を知る経験が、子どもたちの未来にとってかけがえのない財産になると信じております。

次年度に向けて、子どもたちがさらに意欲をもって活動するために、授業の中で、学習内容を振り返ることで、次なる課題を見出していく力を付けていけるよう教職員一同研鑽を積んでまいります。

先行きが不透明で、変化の激しい社会情勢の中、子どもたちには確かな学力だけでなく、困難に立ち向かう心の強さや、多様な人々と協力し合える優しさ、すなわち「生きる力」を身につけてほしいと願っております。学校での学びや友だちとの関わりを通して、自分で考え、行動する力を育むことが、次の時代を担う子どもたちのたくましい成長につながると考えています。

めまぐるしく変化する社会の中でも、子どもたちが自分の力で未来を切り拓いていけるよう、教職員一同、これからも力を合わせ、子どもたちの成長を支えてまいります。保護者の皆様におかれましても、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

図書

本との出会い ホントの出会い

図書館では、たくさんの本に親しんできました。週一時間のクラスタ図書は「ゆっくりと本を読む時間」です。サポーターの読み聞かせや、互いにおすすめ本を紹介しあう活動などをしながら楽しく読みすすめています。子どもたちは本が置いてある場所もよく覚えていて、絵本、科学の本、物語など自分の好みで読書活動をすすめることができました。おもしろいところを見つけるとうれしそうに話しくる子どもたちが多く、読書が子どもたちの心を豊かにしてくれていることを感じる時間になっています。

また、「学習に関連した本を読み調べる時間」は学級でとってきました。国語科で出た説明文や詩、生活科・理科での生き物、社会科で都道府県や歴史の本などです。取り組みにあたり、八尾市立図書館と連携をとり、多くの本を集めるようにしています。たくさんの本があることで、自分なりの興味を深められるようにしています。学校図書館は情報センターとしての役割もあり、調べ学習はもとより、自主学習に使える本など幅広く子どもたちの疑問に対応できるように努めています。

図書システムでこれまでに借りた本の冊数を知ることができるのでそれを確認して読書のモチベーションにしている児童もいます。読書は語彙力を増やすのみならず、集中力の向上や、想像力の育成にも関わってくるといわれています。本との出会いを通じて、子どもたちが成長していくようこれからも活動をすすめていきます。



図書館キャラクター
本の博士 **ホカン**

災害からいのちを守るために

本校では、毎年、さまざまな事態を想定して避難訓練を計画・実施しています。今年度、実施した訓練の一部を紹介します。

六月には、地震の避難訓練を行いました。大きな地震が起こったとき、安全な経路を確認した上で運動場へ避難できるかを目的にしました。また、一月には、火災の避難訓練をしました。家庭科室より出火したと想定し、二時間目開始早々に緊急放送が流れた後、適切な行動がとれるかの訓練です。この訓練でも、それぞれの教室から出火元の教室を避けて、安全かつ迅速に運動場へ避難することができました。

いずれの訓練でも子どもたちは、いざというときに備え、自分の命と安全を守るために速やかに避難ができていました。内閣府の防災情報のウェブサイトに掲載されている事柄の中でも特に以下の三点について、ご家庭で子どもたちと話し合う機会をもっていただけたらと思います。

- * 事前の備え：家具の転倒防止、災害用品、備蓄品の備えなど、いつもの暮らしの中で、もしもを考えて備えるだけでいざというときに役立ちます。
- * 家族の取り決め：日頃から災害が起きたときの集合場所や連絡方法や子どもへの引取りなどあらかじめ家族で取り決めをしておきましょう。
- * 発災時の行動：地震や火災など、もしもおうちで災害が起きたらどんな行動をするかよいのか、子どもたちと話し合っておくことも大切です。

災害は、いつ、どんなときに、どんな規模で起こるのか予測が立てにくいものです。災害が起きる前の備え、起こってから行動をはじめ、いのちを守る行動ができる子どもたちを、学校とご家庭、そして地域のみなさまと協力しながら育てていけたらと考えています。これからもご協力をお願いします。

不思議を自分の手で真実に変えよう

この一年間、四・五・六年の理科の授業では、『不思議を自分の手で真実に変えよう』をテーマに日常の不思議に触れ、自分たちで実験や観察を行いながら学習に取り組んできました。三学期の授業内容を紹介します。

四年生では、温度とともに変化する水の姿を学習しました。『何度で水は、水蒸気になるのだろうか。』『何度で水は氷に変化するのだろうか。』とそれぞれが不思議を持ち、実験する姿が見られました。

五年生では、電磁石について学習しました。コイルに鉄心を入れたものに電流を流すと、磁石と同じ働きをすることに子どもたちも驚きの様子でした。電流の大きさを変えるなど、条件を変えながら実験することで、電磁石の性質を楽しく学ぶことができました。

六年生では、発電と電気の利用について学習しました。今まで学習した電気を、自分たちで作ってみることに挑戦しました。ソーラーパネルや手回し発電機で発電させました。発電の学習を通して、電気を無駄なく使用する工夫を考える活動につながりました。

どの学年も（予想、実験、観察・考察・結果・ふりかえり）を大切にして授業をしてきました。子どもたちは、自分たちの手でたくさん不思議を真実に変えてきた一年でした。結果が分かっている自分でも実際にやってみることで、新たな疑問が湧いてきたり、こうだろうと思いついてきた結果が実は違う結果になったりと、自分の手ですることは何より大事だと子どもたちの姿を見て気付かされました。次のステージでも、様々な現象に興味をもちつつ、不思議を自分の手で真実に変えること大切に理科を楽しんでほしいと思います。

